

# 令和5年 ダイズ莢及び子実被害調査結果

## 1 調査の概要

### (1) 調査地点・ほ場数、調査莢数、調査粒数

	地点・ほ場数	莢数	粒数
中通り	3地点・12ほ場	2,559 莢	4,888 粒
会津	3地点・12ほ場	2,408 莢	4,796 粒
浜通り	3地点・12ほ場	2,511 莢	4,160 粒
合計	9地点・36ほ場	7,478 莢	13,844 粒

### (2) 調査方法

1ほ場当たり約200莢を採取し、莢及び子実を調査した。

## 2 県全体の発生状況

### (1) 莢被害

被害莢率は平年よりやや低くなりました。マメシンクイガの被害が少なかった一方で、フタスジヒメハムシによる被害が目立ちました（図1）。

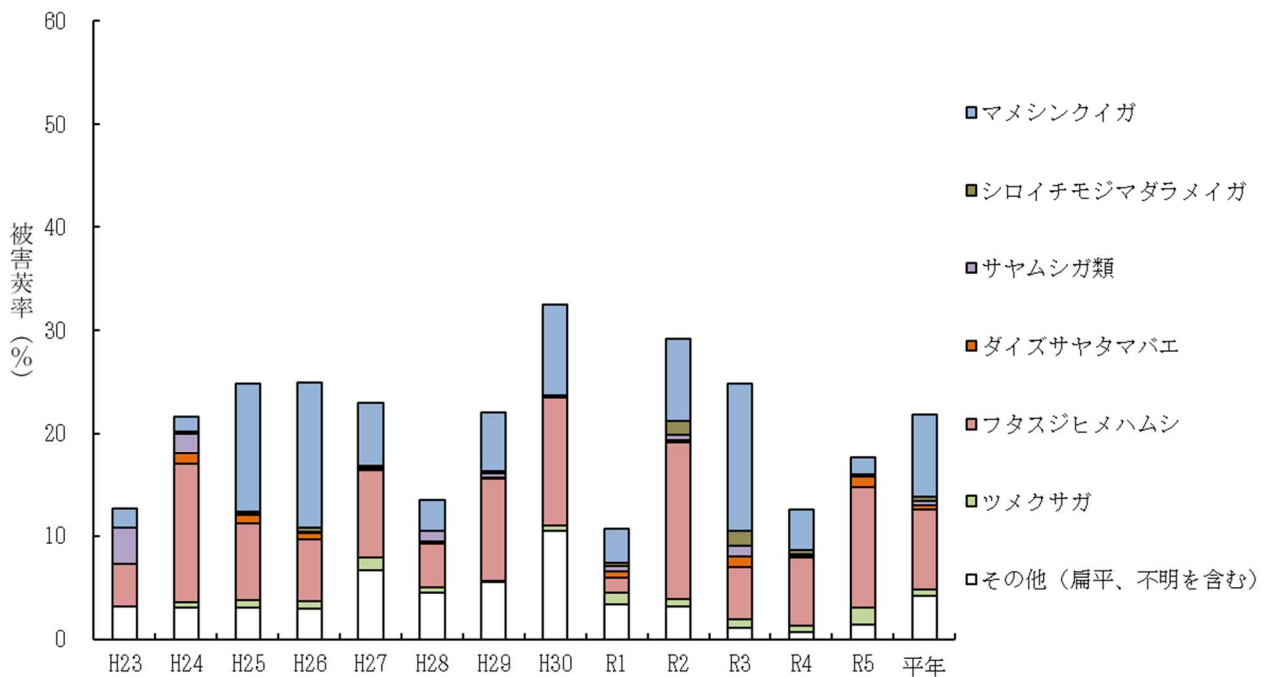


図1 原因別被害莢率の年次推移

## (2) 子実被害

被害粒率は平年より高くなりました。吸実性カメムシ類による被害が非常に多く、扁平粒やカビ粒も発生が目立ちました(図2)。

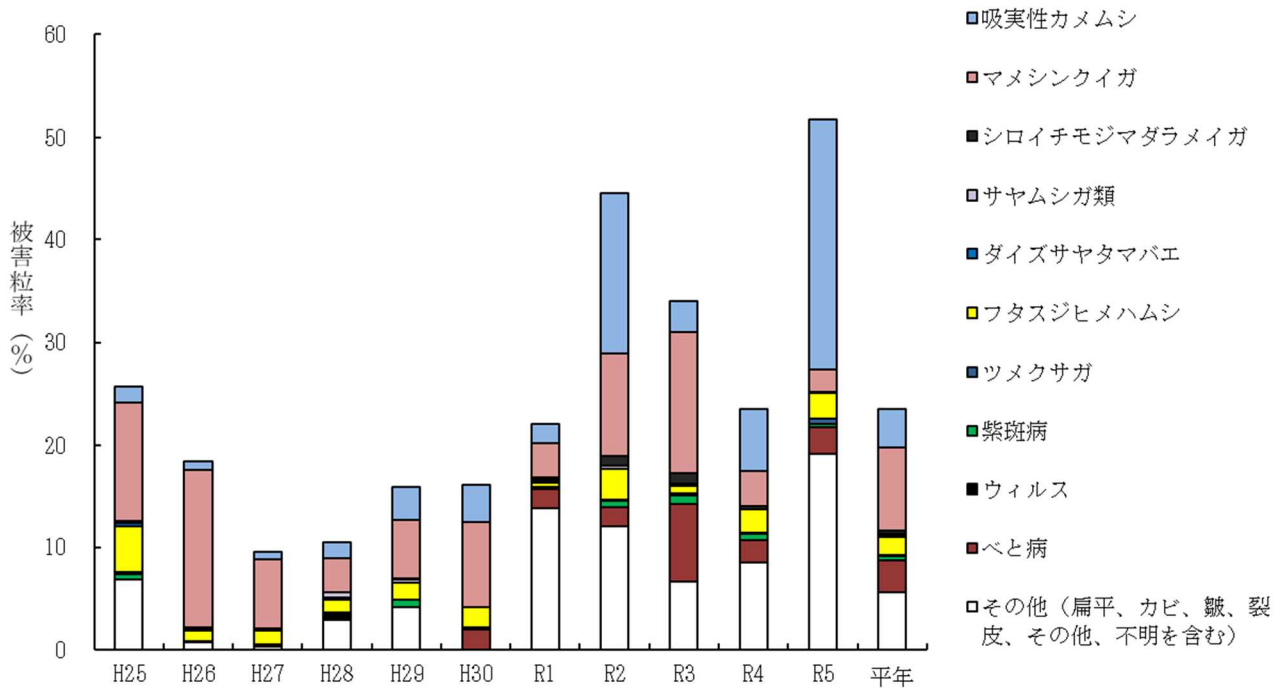


図2 原因別被害粒率の年次推移

## 3 害虫による被害の発生状況

### (1) 吸実性カメムシ類

被害粒率は全域で平年より高くなりました(図3)。

ダイズの生育期間中の気温が平年より高く経過したため、吸実性カメムシ類の増殖・活動に適した気候だったことから、被害が多くなったと推測されます。

高温で雨の少ない年は発生が多くなりやすいため、防除を実施してください。

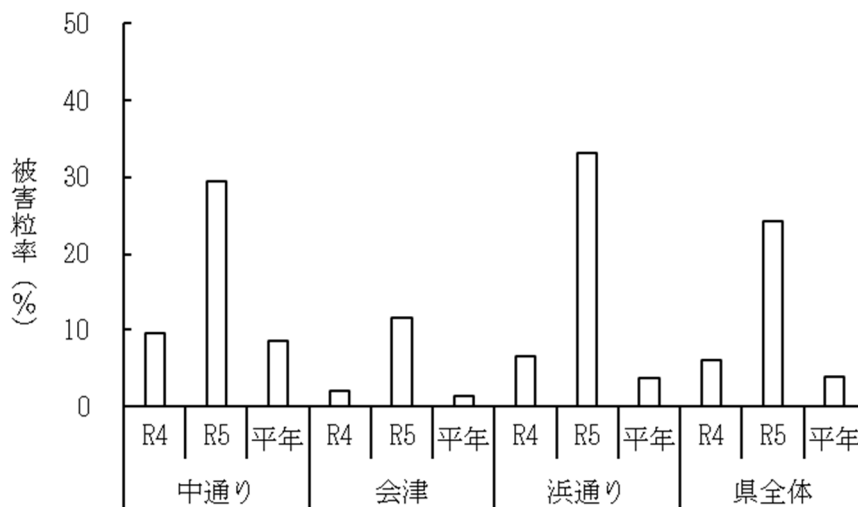


図3 吸実性カメムシ類による子実被害の発生状況

## (2) マメシクイガ

被害莢率・粒率ともに全域で平年より低くなりました（図4）。

調査ほ場に連作ほ場が少なかったことが要因と考えられますが、複数年連作を続けたほ場の付近では被害の目立つほ場がみられました。

3年以上連作を続けるほ場では発生が急増しやすいため、防除を実施してください。

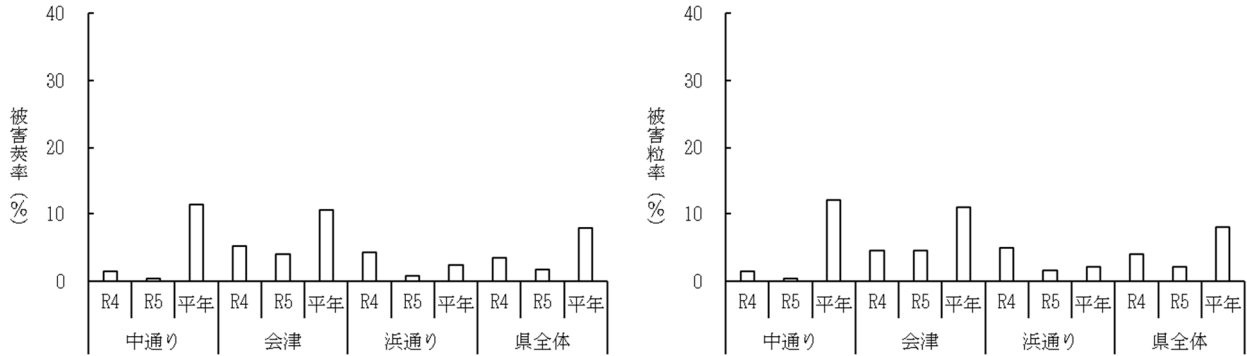


図4 マメシクイガによる莢・子実被害の発生状況

## (3) シロイチモジマダラメイガ

被害莢率・粒率ともに全域で平年より低くなりました（図5）。

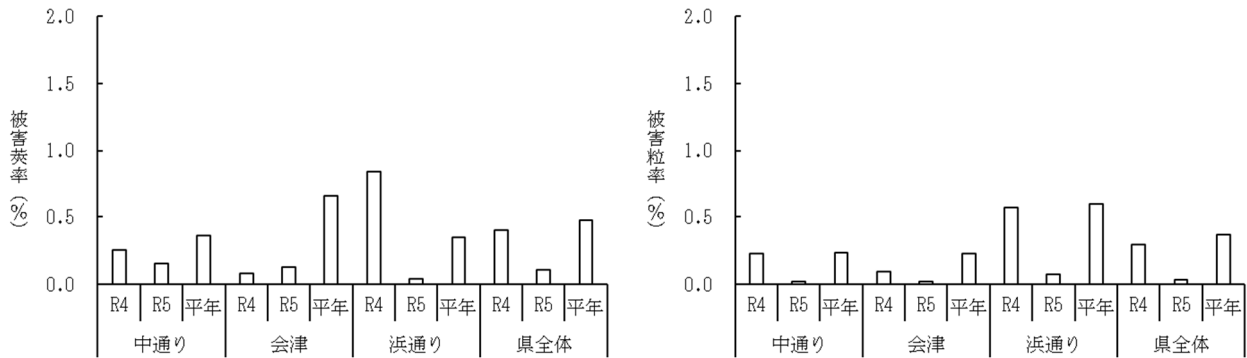


図5 シロイチモジマダラメイガによる莢・子実被害の発生状況

## (4) サヤムシガ類

被害莢率・粒率ともに中通り、浜通りで平年より低くなりました。会津では莢・子実ともに被害は確認されませんでした（図6）。

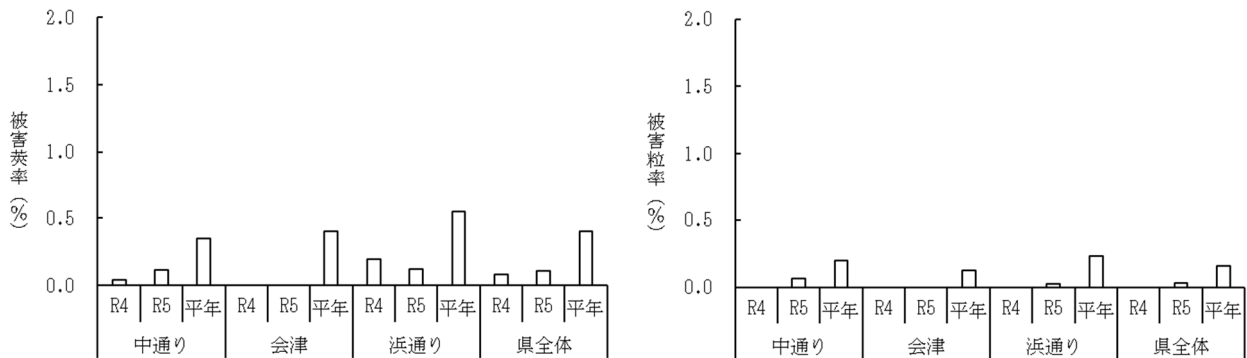


図6 サヤムシガ類による莢・子実被害の発生状況

### (5) ダイズサヤタマバエ

被害莢率は全域で平年よりやや高いから高くなりました。被害粒の発生は確認されませんでした(図7)。

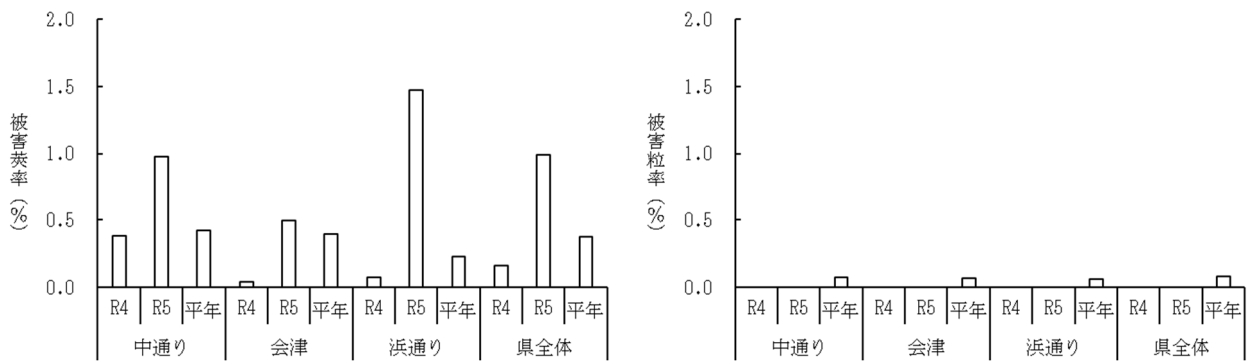


図7 ダイズサヤタマバエによる莢・子実被害の発生状況

### (6) フタスジヒメハムシ

被害莢率は中通り、会津で平年より高く、浜通りで平年並でした。被害粒率は中通り、浜通りで平年並、会津でやや高くなりました(図8)。

発生が多いと収量や品質に影響を及ぼすので、子実肥大期に防除を行ってください。

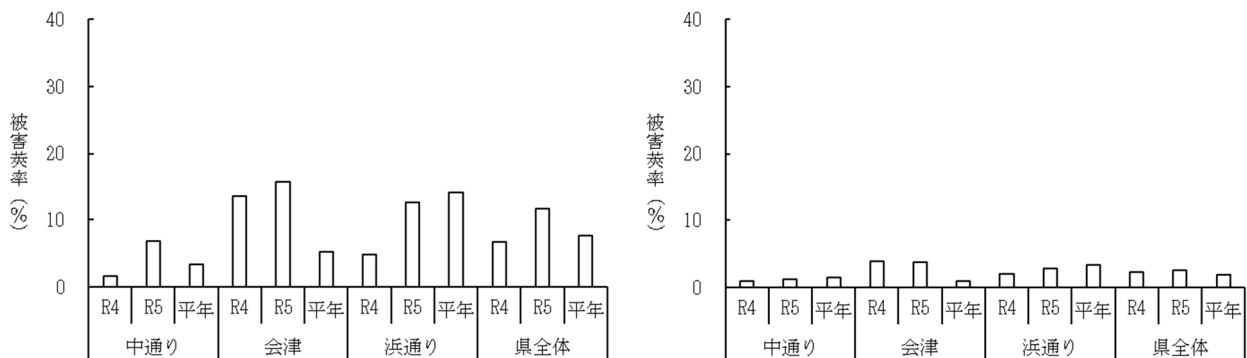


図8 フタスジヒメハムシによる莢・子実被害の発生状況

### (7) ツメクサガ

被害莢率・粒率ともに中通り、会津で平年よりやや高いから高く、浜通りで平年並でした(図9)。

昨年度に引き続き、突発的に発生して葉が食い荒らされるほ場が確認されました。発生が多いとその後の生育や収量に影響を及ぼす場合があるため、幼虫が若齢のうちに防除を実施してください。

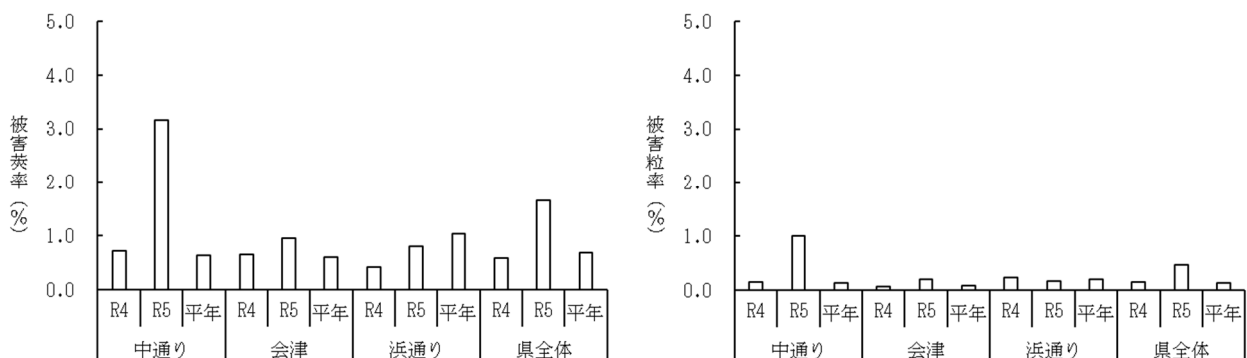


図9 ツメクサガによる莢・子実被害の発生状況

## 4 病害による被害の発生状況

### (1) 紫斑病

被害粒率は中通りで平年より低く、会津で高く、浜通りで平年並でした（図10）。

収穫の遅れや収穫後の放置で被害が拡大するため、適期収穫と収穫後の速やかな乾燥・調製を心がけてください。

また、近県でQoI剤に対する耐性菌の発生が確認されているため、防除薬剤のローテーションに注意してください。

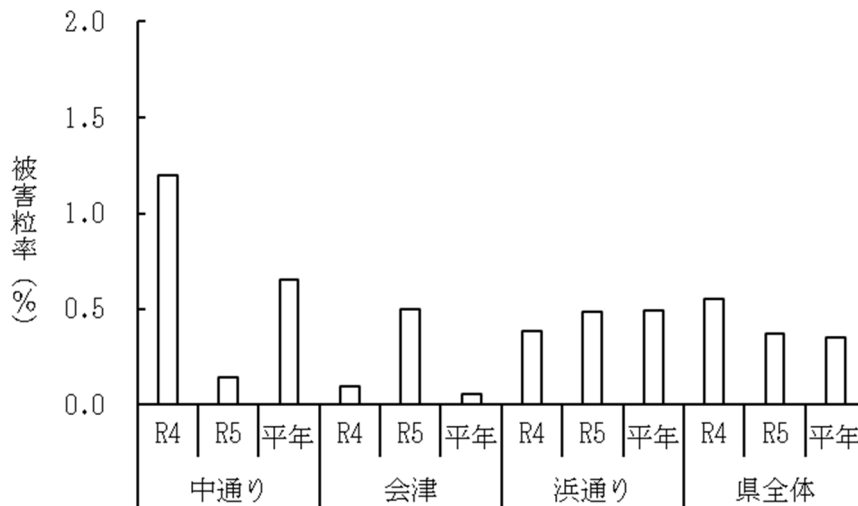


図10 紫斑病による子実被害の発生状況

### (2) ベと病

被害粒率は中通り、会津で例年並、浜通りでやや低くなりました（図11）。

近年作付面積が増えている「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、発生初期から防除を実施してください。

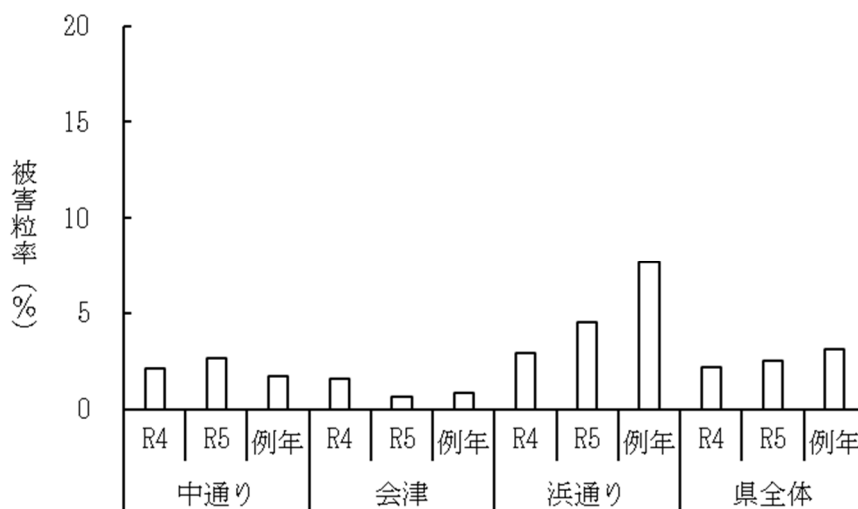


図11 ベと病による被害の発生状況

注) 本病の子実被害調査は平成30年より実施